

# 特 殊 報

長崎県病虫害防除所長

平成25年度病虫害発生予察 特殊報第1号

- 1 病虫害名 ミツコビナミハダニ (*Tetranychus evansi* Baker & Pritchard)
- 2 発生作物 ばれいしょ
- 3 発生場所 長崎県諫早市

## 4 発生確認の経過及び発生状況

平成25年11月上旬に秋作ばれいしょにおいて、ナミハダニ赤色型に類似したハダニ類の多数の寄生(写真1、2)と葉の白化症状が認められ、地上部が枯死した株も散見された(写真3)。ハダニ類を採集し、茨城大学農学部の後藤哲雄博士に同定を依頼したところ、ミツコビナミハダニであると同定された。本種の本県ばれいしょにおける発生確認は初めてである。なお、現在のところ発生を確認しているのは1圃場(15a)のみである。

本種は国内では、平成13年に大阪府及び京都府のイヌホオズキで初めて発見され、本県でも平成21年に長崎市のイヌホオズキで初めて確認されている。その他、現在までに兵庫県、東京都、福岡県、鹿児島県、高知県、沖縄県及び奈良県のナス科植物で発生が確認されている。

## 5 形態及び生態等

- (1) 本種の体長及び体色は、雌成虫が0.6mm程度でくすんだ橙色～濃橙色、雄成虫が0.47mm内外で白～淡橙色である。休眠性は示さず、ナミハダニ(*Tetranychus*)属の中でも非常に高い増殖力を有する。本種は主に葉裏に寄生し、初め寄生部位の葉に小さい白色斑点を生じさせるが、寄生密度が非常に高くなると葉を白化させるため、植物は枯死する場合もある。
- (2) 寄主植物は、ばれいしょ、トマト、ミニトマト、なす、ピーマン、トウガラシ、パプリカ、ホオズキ、イヌホオズキ、ワルナスビ、テリミノイヌホオズキなどであり、ナス科植物に特化している。

## 6 防除対策

- (1) 圃場周辺のナス科植物は発生源となる可能性があるので除草に努め、それらの植物での発生に注意し、ばれいしょ圃場への侵入を防ぐ。
- (2) ばれいしょには、ハダニ類対象にルビトックス乳剤の登録がある。いも類のハダニ類対象には、気門封鎖型殺虫剤のアカリタッチ乳剤の登録があり、ある程度の殺成虫効果が認められている。
- (3) トマト、ミニトマト、なす、ピーマンにも寄生するので、これらの作物における発生にも注意する。なお、これらの作物に登録のある一般的な殺ダニ剤の効果は高いとされている。



写真1 寄生状況



写真2 寄生状況



写真3 発生圃場の状況（欠株部が枯死した部分）



写真4 ミツユビナミハダニ雌成虫

---

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027